

授業概要

本科目は、全学共通科目として、全学部学科の1・2年次生に配当された科目である。したがって、全学の学生に向けた、日本文学の入門編としての意味を持つ内容とする。

そこで、よく知られている芥川龍之介の『羅生門』から話を始めて、日本文学の古典分野について講義することとする。芥川龍之介が、材を得て創作した作品の内容を見ていながら、芥川が例として挙げた、日本古典文学の代表的作品をいくつか見ていくことにより、日本文学の古典に関する入門編を目指すこととする。

授業計画

| | |
|------|-------------------------------------|
| 第1回 | 導入、芥川龍之介と『羅生門』 |
| 第2回 | 『羅生門』の基となった話 |
| 第3回 | 『今昔物語鑑賞』「野性の美」 |
| 第4回 | 『今昔物語集』の説話(1)『今昔物語集』の概要 |
| 第5回 | 『今昔物語集』の説話(2)大江定基の説話 |
| 第6回 | 『今昔物語集』の説話(3)大江定基の出家 |
| 第7回 | 「優雅な苦しみ」 『源氏物語』(1)『源氏物語』の人間関係 |
| 第8回 | 「優雅な苦しみ」 『源氏物語』(2)桐壺帝と藤壺と光源氏 |
| 第9回 | 「優雅な苦しみ」 『源氏物語』(3)光源氏と女三宮と柏木 |
| 第10回 | 「優雅な苦しみ」 『源氏物語』(4)『源氏物語絵巻』の作者と作成依頼者 |
| 第11回 | これまでのまとめ |
| 第12回 | 「簡古な苦しみ」 『大鏡』(1)『大鏡』の概要 |
| 第13回 | 「簡古な苦しみ」 『大鏡』(2)藤原兼通の人柄 |
| 第14回 | 「簡古な苦しみ」 『大鏡』(3)兼家と兼通の関係 |
| 第15回 | 全体のまとめ |
| 第16回 | 定期試験 |

到達目標

日本文学(古典)の入門篇として、いくつかの作品の方向性の違いが理解してもらえることを目指す。古典文学とは優雅で優美な貴族の世界を描くものという一般的イメージとは、全く違う方向性の古典文学作品もあったということを理解してもらいたい。

履修上の注意

全学共通科目として、全学部の学生に向けた科目であることに留意して、わかりやすい講義をするつもりである。ただし、授業中に他の受講生への迷惑になるような学生には出て行ってもらうので、真面目な受講をお願いしたい。

予習復習

授業の前に目を通しておいてもらいたい資料は事前に配付するので、その際には是非とも一読して授業に臨んでもらいたい。復習としては、特に必要ないと思われるが、わからなかった場合には積極的に質問をお願いする。

評価方法

ほぼ、定期試験80%、受講態度20%という割合で総合的に評価する。

テキスト

特に指定しない。適宜授業中に資料を配付する。

授業概要

『百人一首』に入る和歌を読み解いていきます。

古代の人々の自然観や恋愛の形、生活の諸相などについて説明し、〈和歌〉という詩に特有の修辞技法についても触れつつ、詠まれた心情内容について理解が深められるよう講義します。

和歌は日本文学の基本です。和歌に関する知識を身につけることも大切だけれど、この授業ではむしろ、和歌に詠まれた情景を想像することに主眼をおきます。言葉のはたらきのうち、〈人の心に訴えかけてイメージさせる力〉を、日本人が長い時間をかけて磨き上げ、洗練してきたことを感じ取ってください。

授業計画

| | |
|------|--------------------------------------|
| 第1回 | 和歌の基礎知識 と 王者の歌（1天智天皇、2持統天皇） |
| 第2回 | 大まかな和歌史の流れ と 万葉集時代の歌（3柿本人麻呂、4山辺赤人） |
| 第3回 | 句切れと掛詞（5猿丸大夫、9小野小町） |
| 第4回 | 見立てという手法（17在原業平、37文屋朝康、69能因法師） |
| 第5回 | 状況を語る詞書（35紀貫之） |
| 第6回 | 序詞のはたらき①（18藤原敏行、27藤原兼輔、51藤原実方） |
| 第7回 | 序詞のはたらき②（16在原行平、46曾禰好忠、48源重之） |
| 第8回 | ことば遊びと機知（22文屋康秀、28源宗子） |
| 第9回 | 月の歌①（21素性法師、30壬生忠岑） |
| 第10回 | 月の歌②（31坂上是則、81藤原実定） |
| 第11回 | 女歌の系譜①（67周防内侍、88皇嘉門院別当） |
| 第12回 | 女歌の系譜②（72祐子内親王家紀伊、89式子内親王） |
| 第13回 | 叙景歌の新局面（70良暹法師、76藤原忠通、79藤原頭輔、87寂蓮法師） |
| 第14回 | 本歌取りの効果（52清原元輔、90殷富門院大輔） |
| 第15回 | 前衛的な言語実験（74源俊頼、97藤原定家） |
| 第16回 | 筆記試験 |

到達目標

- ① 和歌を構成する語や表現についての説明を聞き取り、それを組み合わせて情景や詠み手の感動を想像できる。
- ② 古代の日本人の自然観や生活習俗を知り、古典文学に親しむ。

履修上の注意

和歌の内容を読み取る上で必要な知識はすべて講義しますので、受講生はそれらを組み合わせて情景を想像し、和歌を詠んだ人の気分を追体験してください。

授業では、しばしば受講生の意見を求めます。指名されたら、必ず自分の考えを述べてください。

予習・復習

予習は必要ないけれど、授業を受けてノートを取り、復習しないと、小テストをクリアできません。

評価方法

学期末試験 65%、小テスト 35%の割合で総合的に判定します。

テキスト

谷知子『カラー版 百人一首』（KADOKAWA 504円）

授業概要

日本人として初めてノーベル文学賞を受賞した川端康成を取り上げます。「眼力」で泥棒を撃退するなど、とにかくユニークな逸話がもりだくさんの川端康成。作家像と、その独創的な感性や特異な境遇から生み出された作品の数々を、講義していきます。手のひらにのるくらい小さな短編小説のほか、『伊豆の踊子』を中心にとりあげ、夏目漱石から受けた影響、松本清張に与えた影響といったことも考えていきます。まったく同じ舞台設定で、文豪と文豪が対決したら・・・？どちらの作家の作品のほうが優れているのか、文豪対決を楽しみながら、それぞれに味わってみましょう。

授業計画

| | |
|------|-----------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス |
| 第2回 | 川端康成について（生い立ち、ユニークな人物像、交友関係など） |
| 第3回 | 文章の特徴を学ぶ |
| 第4回 | 「掌の小説」を読む①弱き器 |
| 第5回 | 「掌の小説」を読む②火に行く彼女 |
| 第6回 | 『伊豆の踊子』を読む①踊り子のモデルと「掌の小説」 |
| 第7回 | 『伊豆の踊子』を読む②被差別について |
| 第8回 | 『伊豆の踊子』を読む③風景描写について |
| 第9回 | 文豪 vs. 文豪①川端康成と夏目漱石 |
| 第10回 | 文豪 vs. 文豪②『伊豆の踊子』と『草枕』 |
| 第11回 | 文豪 vs. 文豪③川端康成と松本清張 |
| 第12回 | 文豪 vs. 文豪④『伊豆の踊子』と『天城越え』 |
| 第13回 | ノーベル賞講演「日本の美しい私」と『雪国』 |
| 第14回 | ノーベル賞講演「日本の美しい私」と国鉄の「ディスカバー・ジャパン」 |
| 第15回 | まとめ |
| 第16回 | 学期末試験 |

到達目標

日本を代表する作家について学び、これから文学を学んでいくための入門とする。

また、『伊豆の踊子』などの作品を細部まで精読する力を身につけると共に、『伊豆の踊子』と『草枕』、『伊豆の踊子』と『天城越え』といった作品同士の影響関係を学ぶ。

履修上の注意

関心があれば誰でも受講可能。私語厳禁。

予習復習

授業前に配布するプリントを熟読の上、出席すること。

評価方法

授業時の平常点および試験の点数結果にもとづいて評価する（試験70%、リアクションペーパー30%）。評価は、3分の2以上の出席を最前提とする。

テキスト

各回、プリントを配布。また、教科書として『読んでおきたい日本の名作 伊豆の踊子ほか 川端康成 I』（教育出版）を使用する。